

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200080		
法人名	社会福祉法人 静岡和洋福祉会		
事業所名	グループホーム浜屋		
所在地	静岡県静岡市駿河区中島2566-6		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200080&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200080&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年10月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「普通の暮らし」の継続にこだわった住環境の中で、認知症の方がご自分の意思で選択し、ご本人らしく生活していただくことを第一と捉え、日々の支援を行なっています。身体的なレベル低下、認知症の進行等多様な形で重度化してきていますが、個別に適切なケアの提供をしていくとともに、この浜屋らしさも大切にしていきたいと思っています。ご家族のご理解とご協力、特養からのバックアップ等恵まれた環境を活かし、浜屋だから出来る認知症ケアを深めていきたいと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清流安倍川の河口近くに立地し、海からの潮風を感じながら日常生活を送る事が出来る自然環境にめぐまれたホームである。施設長と職員間の信頼関係も厚く、昨年度の外部評価の要改善項目の改善や今回の自己評価票の作成にも職員全員で取り組み、利用者ケアを重視した運営が行われ家族や関係者からも厚い信頼を得ている。また昔ながらの古民家を思わせる土間や二間続きの和室、縁側など、レトロな調度品と合わせて昭和の雰囲気を感じさせる居心地の良いホームとなっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行ききたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に、グループホーム独自の理念を職員皆で作上げ、皆が使う和室に掲示することで実践への意識付けとしている。	ホーム開設時からの理念である「当たり前の生活の提供と寄り添う介護」を和室に掲げ、管理者、職員共に常に意識しながら、利用者の日々の暮らしに反映するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での行事(夏祭り・運動会・どんど焼・公民館での交流会等)に参加させて頂いている。また、毎日の散歩でも近所の方々に声を掛けていただいている。	毎日の散歩の際には、近隣の人々に声を掛けてもらったり、地域の行事では、初夏になると最近少なくなった木タル祭りなどにも参加し、他の行事等にも出掛けるなど地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の集まりの場に職員も参加させていただき、サービスのご説明や、ご相談への対応を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター職員やご家族に出席していただき、2ヶ月程度の間隔で開催している。	運営推進会議は、民生委員、利用者家族、地域包括支援センターの職員、ホームスタッフなどのメンバーで定期的開催され、ホームの活動報告や意見交換などが行われ利用者へのサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時の相談等はさせていただいているが、その他継続的な取り組みはしていない。	市担当者とは運営推進会議以外、定期的な連携が取られていない。	更に地域に根ざしたホームとなるよう、市とは様々な機会を通じての関わりを持つことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含め身体拘束にあたる行為は行っていない。内部研修として「身体拘束」を取り上げ、職員間でも意識を確認しあっている。	利用者の身体的なレベル低下に伴い、施設長、職員共に、対象となる具体的な行為を正面から受け止め確認している。医療機関とも連携しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修として「虐待」を取り上げ、皆で考える機会を持った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では特に行っていないため、今後内部研修で取り上げ、知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明はもちろんのこと、日頃からご家族との交流の機会を多く設けている為、随時その疑問や不安に対応し、ご理解を頂いていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との交流の機会が多く、意見、要望等をその都度伺える関係作りに努めている。また、運営推進会議にもご家族皆様に出席していただいている。	気軽に相談できる体制が取れており、来訪時の面談や運営推進会議にも家族、関係者が出席して、出された意見等は、毎月の会議などで全職員が共有し、改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の言動に注意を払い、意見は随時聞く姿勢で取り組んでいる。必要時には個別の面談も行う。	定期的に勉強会や意見交換などが行われており、施設長は、職員の気付きやアイデアを取り入れるよう、努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休に加えて有給休暇も利用できるよう考慮、時間外勤務はほとんど行っていない。月1回施設の補助で整体が受けられる等心身のケアにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修(ホーム内、特養)を開催、また出来る限り外部研修にも参加の機会を設け、その職員からの報告会も行なっている。新規職員は特養での研修も行い、知識・技術の習得に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム職員の交流会に定期的に参加し、情報交換やネットワークづくりの機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはホームに慣れ安心感を持っていただくことを考え、随時ご家族と話し合いながら対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは安心していただけるよう細やかな説明を行い、不安や要望を具体的に話し合えるような関係作りを意識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	デイサービスの日に日中だけ通ってくることから始めた方や、ショートステイのようにお泊りに来ることから徐々に移行していった方等、柔軟に対応してきている。他サービスとの併用はない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の様子は職員も含め「みんなで生活している大家族」といったスタンスであり、入居者間、職員とも互いに支えあい労わり合うような関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診の対応、食事会や遠足、運営推進会議への参加等、入居後も距離を開けすぎずに関わっていただけるような機会が多くある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別のニーズには出来るだけ応えられるようご家族の協力もお願いしている。宿泊できる部屋も準備している為、遠方の方も面会に来て下さっている。	利用者の今までの、関係継続が途切れることがないよう、家族や関係者と相談しながら支援している。いつでも宿泊できるよう和室も用意され、気軽に面会出来るよう努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と支えあう関係を作って下さっている為、むやみに介入しすぎないよう配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開所以来、退居された方は1名のみ。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での言葉や表情等から、希望やお気持ちの変動を把握、またご家族に打ち明ける思い等も伺えるように努めている。	利用者本人の思いや、家族の希望などを取り入れながら、日々の関わり合いの中で利用者の返事や表情などにより、その真意を推し測ったりして確認をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族からの情報収集(センター方式シート)や、日々のコミュニケーションの中から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家庭生活のように、出来る限り各々のペースで生活していただけるよう援助している為、その中で個々の心身の状態や変化、出来ること、やりたいこと等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で各個別処遇についての報告、検討を行い、また面会時等のご家族の意向も踏まえ介護計画を作成している。	利用者本人が、その人らしく毎日を暮らせるよう、計画担当者は本人や家族からの希望を聞き、職員から日常のケアの状況や意見等を聞きながら、利用者本人の希望に添った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録・日誌・連絡帳・月1回の会議で情報を共有し、適切なアセスメントやモニタリングが出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時には送迎や受診対応等行なっている。隣接する特養の車を使用できることで、外出の幅を広げることが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの外に出掛ける機会を多く設けていることで、地域社会との関わりに希薄性や不安を感じることはないように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して主治医とし、定期受診は基本的にはご家族に対応していただき、必要時には情報提供やご相談等を書面や電話で対応している。	基本的には、入居前からのかかりつけ医を主治医としているが、常に適切な医療を受けられるよう、隣接している特養の看護師に処置や指示を仰いでいる。また、夜間の緊急時にも対応できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している特養の看護師がほぼ毎日訪問して状態把握、必要時の処置や指示を行っている。その為、緊急時にも対応できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に伺って情報提供、状態把握を行い、退院前には必要に応じてその後の対応についての話し合いを持たせていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアはまだないが、徐々に重度化している現状から、ご家族に対し会議の中で指針の説明を行った。今後個別に必要な話し合いを慎重に進めていきたいと思う。指針は全職員にも配布、周知している。	ターミナルケアについての指針を職員、利用者・家族等に説明し、状況に応じて話し合いの上慎重に進めたいとしている。	夜間等において職員が安心して対処できるよう勉強会などの取り組みも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による緊急対応の勉強会を行い、その知識技術向上、または緊急事態に対しての意識づけ等を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施、隣接する特養や地域の方々との連携で円滑な対応が出来るようなマニュアルや体制をつくり備えている。	浜屋独自の防災訓練はないが、年2回、隣接する特養と合同で訓練を行っているほか、地域の方との協力体制も築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に敬語を使うことを徹底してはいるが、家族的な親しみの中でも配慮ある言葉掛けを行なっている。	常に利用者側の目線に立ち、声掛けや対応は、繰り返し確認を取りながら行っている。一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの保護に職員全員で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で起こる自己決定の場面で、ご本人が自然に選択して下さっている。認知症により困難になっている方には、お気持ちの様子を見ながらの促しで対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外に時間で決まっている日課はないので、それぞれが思い思いの時間の過ごし方をされている。その把握と見守り、要望があった際の対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方にはそれとなく促しをしたり、介助が必要な方には職員がメイクしたりと、おしゃれや身だしなみも生活のハリになるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備は出来ることを手伝っていただくことが多く、下膳食器洗いは自発的に行なってくださるのが習慣になっている。	利用者それぞれ食事に要する時間が異なるが、職員がテーブルに寄り添いながら、楽しく食事が出来るよう支援している。また準備や後片付けも、利用者に合わせた対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士が毎週献立チェックを行なっている。摂取量が低下している方には管理栄養士や看護師と相談し、補食の提供や水分を摂っていただけるよう工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼はご本人にお任せしたり、必要な方を介助で行なっている。夕食後は皆に同行し、義歯は介助にて洗浄し夜間預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用の方でも日中はリハパンを使用してトイレ介助を行なっている。夜間だけリハパン着用する方や尿取りパットを併用する方等、その方に合わせた支援を行なっている。	利用者の排泄パターンを職員がさり気ない見守りで対応している。レベル低下が進む中で、職員全員で個々に合わせた排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保や牛乳、ヨーグルトを摂っていただく等で対応している。毎日の散歩など適度な運動も継続している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ全員が毎日入浴している。その日の状況やお気持ちに合わせて行い、夕食後に入浴される方もいらっしゃる。	入浴は毎日出来るので、利用者の意向や希望を最優先に考え、ゆったりとした気分で入浴できる様職員が工夫して支援している。浴槽内も広く、清潔に保たれており、楽しみの一つとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事時間以外はそれぞれの過ごし方をいただいているので、ご本人のペースで日中休まれている方もいる。和室を好んで休まれている方もいる。消灯時間も決まりがないので、個々の習慣で時間が異なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診結果や処方の変更等は看護師も含め情報共有している。配薬や服薬のチェックで誤薬や飲み残しのないよう管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道、編み物など個々の趣味や興味を把握し支援できるよう努めている。また家事は女性入居者の方々を中心に日常的に一緒に行っている為、主婦としての知識や経験を活かしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自立歩行の方々は海までの散歩、歩行に介助が必要な方はマンツーマンでホームの周りを散歩することが日課となっている。日頃からご家族との連携を心掛けており、希望される外出にはご家族が対応して下さることもある。	自然豊かな場所だけに、毎日の散歩コースには事欠かない。海岸や河口近くに出掛けたり、日帰り旅行も楽しみの一つとなっている。今月は花鳥園を予定している。また家族とも連携を取りながら、利用者の希望や健康状態に合わせて外出支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を持されているは、外出時にご自分で買い物されることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は随時対応している。ご家族等から頂いた手紙にお返事を書くことを勧めることもある。また毎年ホームで年賀状や暑中見舞いを作成、ご本人からご家族に送っていたにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過度な飾りつけはせず、通常のお掃除や整頓が行き届いているように努めている。散歩で摘んで来た花をご本人が台所に活かしてくださったり、普通の家庭のような雰囲気を大切にしている。	一般的な家庭感覚で、楽しめる雰囲気であり、縁側から差し込む光が妙に懐かしく感じられ、二間続きの和室では、利用者が暖かい陽気に誘われるかのように昼寝をする姿が見られ、田舎暮らしを体験できるような共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、応接間、和室、2階リビング等生活の中で自己選択していただける空間を多く設けている為、食事時以外は各々の過ごし方を尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使用される家具等(ベッド以外)はご本人の使い慣れた物を持って来て頂くよう依頼し、配置についてもご本人、ご家族の意向に応じている。ご本人が縁側から日差しや風を取り込んでいただくことも多く見られる。	利用者が長年使い慣れた調度品や家具が置かれ、居心地良く生活できるよう配慮されている。縁側から日差しや風を感じながら広いウッドデッキに導かれており、季節感を味わいながら過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や階段等がある造りであるが、その機能や能力に応じて安全に過ごしていただけるよう日々の観察、適度な声かけ促し、必要な援助を行い、過剰介護や過度な介入をしないことも心掛けている。		